

# 北朝鮮核・ミサイルリスクの 総合分析

「朝鮮半島情勢とリスク」研究会  
（「北朝鮮核・ミサイルリスク」部会）  
最終報告書



公益財団法人

日本国際問題研究所

The Japan Institute of International Affairs



## はしがき

本報告書は、当研究所が令和5～7年度外交・安全保障調査研究事業（発展型総合事業）「アジア大洋州地域における安全保障上のリスクの実態」のサブ・プロジェクトの1つとして実施している「朝鮮半島情勢とリスク」研究会（北朝鮮核・ミサイルリスク部会）の研究成果を取りまとめたものです。

北朝鮮の核・ミサイル開発が、日本にとって重大な安全保障上のリスクであることは論を俟ちません。近年ロシアによるウクライナ侵略、中東情勢、米国の姿勢の変化などにより国際秩序が動揺し、この問題が後景に退いているように感じられる向きもあるでしょうが、北朝鮮のロシア派兵など、地政学リスクはより深刻かつ複雑になっているのが実態です。北朝鮮はウクライナ戦争への関与を通じて核・ミサイル開発を加速し、ドローン等の近代戦の経験を得て通常戦力での脅威も高まっています。

本研究会（当部会）ではこのような問題意識に基づき、北朝鮮の核・ミサイルリスクに対する分析・考察を重ねてきました。特に、目に見える現象としての核・ミサイル開発の「動きを追う」だけでなく、政治・経済・外交など、その背景にあるものにも目を向けてより深く「掘り下げる」アプローチを意識しました。そのような知的営為から引き出された日本にとっての政策的含意が、朝鮮半島情勢の現状を浮かび上げらせ、日本の外交政策に貢献することを願ってやみません。

なお、本報告書内で表明されている見解はすべて個人のものであり、当研究所の意見を代表するものではありません。本報告書に収録された各論考の内容はすべて執筆者の個人的見解に基づき、各執筆者の所属機関の見解とも無関係である点を申し添えます。

シンクタンクの本分はタイムリーなイベントの実施にあり、このことは当研究所のレゾナントルとなっていますが、もちろんそのような対外発信は充実した「コンテンツ」によって裏付けられてこそ真価を最大限に発揮することは言うまでもありません。本報告書をはじめとする各研究会の研究成果は、当研究所の重要な資産に位置づけられるものです。本研究会に真摯に取り組まれ、報告書の作成にご尽力いただいた研究会メンバー、ならびにその過程でご協力をいただいた関係各位に対し、改めて深甚なる謝意を表します。

令和8年3月

公益財団法人 日本国際問題研究所  
理事長 佐々江 賢一郎



# 目 次

各章の要旨 .....	1
第 1 章 北朝鮮の「核ドクトリン」における抑止失敗 .....	倉田 秀也 . . . . . 7
——戦術核の効用と海軍力増強——	
第 2 章 北朝鮮核問題における非核化と軍備管理 .....	戸崎 洋史 . . . . . 21
——政策転換論の含意と日本の対応	
第 3 章 ロシアの「特別軍事作戦」開始以降の北朝鮮の 核・ミサイルリスク暫定評価の試み .....	阿久津博康 . . . . . 41
——対外関係の変化を考慮して	
第 4 章 北朝鮮の対外戦略再編と後継の可視化 .....	鴨下ひろみ . . . . . 57
——第 8 回党大会以降の変化と今後の展望	
第 5 章 安保理による北朝鮮制裁の限界が示唆するもの .....	竹内 舞子 . . . . . 73
——履行確保の意義と制裁緩和のリスク——	
第 6 章 第 2 次トランプ政権の戦略と米韓同盟の課題 .....	阪田 恭代 . . . . . 93
——国家安全保障戦略（2025）と国家防衛戦略（2026）を読む	
第 7 章 党第 8 次大会期北朝鮮経済の「構造」分析 .....	飯村 友紀 . . . . . 109
——「社会主義建設の全面的発展」論と「地方発展 20 × 10 政策」 に見る軍事・経済の相関関係と力学——	

